

---

**好きになったのは「島」でした。**

tazdev

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

好きになつたのは「島」でした。

### 【Nコード】

N7525Z

### 【作者名】

tazdev

### 【あらすじ】

彼氏いない歴〃年齢まつしぐらの、もう女として、人間として終わってるんじゃないのかというtazdevです。

モチなさすぎて脳みそがとうとう壊れてしまったのか、現在の恋のお相手は……島だったりします。

南半球、オーストラリア。

最小の州で、唯一の島州である「タスマニア州」。

ここに足を踏み入れてしまつて以来、タスマニアに首っただけ！！

気まぐれすぎる天気も、夏に雪が降るようなありえなさも、どこま

でも続くような広い空も、夏でも泳げないくらいの冷たい海も、全てひっくるめて愛してる！！

特にタスマニア亜種のハリモグラや、夏鳥のアカハラワカバインコちゃんは可愛すぎて……あ、鼻血が……。

そんなアホな日本人が綴る、タスマニア生活のエッセイ集です。

メインランド⇨オーストラリア大陸のこと。

## アカハラワカバインコに会いたい！！

タスマニアでは、野生のインコやオウムが何種類か観察できます。固有種であるアカビタイキクサインコ、その親戚のナナクサインコ。夏になると大陸から渡ってくるオトメインコにアカハラワカバインコ。群れでギヤーギヤー騒ぎまくりのキバタンにキイロオクロオウム。夜行性でめっちゃくちゃシャイなキジオウム……。公園や郊外で、しょっちゅう目にする子もいれば、ある特定の場所で粘りに粘って、運が良ければやっと見られるという、レア度の高い子まで各種取り揃えております。

その中の一種である「アカハラワカバインコ」。タスマニアではもちろん、オーストラリアや世界中のどんな鳥の中でも、レア中のレアすぎる鳥がこのインコ。

何せ、野生では35羽程度しか生息していないという最新の調査結果も出ているくらいで、IUCNのレッドリストには「critically endangered」にランク付けされているというお墨付き。

繁殖期である夏をタスマニアで過ごし、冬になると大陸に渡って越冬をする、渡りをするというちょっと変わった習性を持つこのインコが、ほぼ確実に見られるという場所が実はタスマニアに一ヶ所あつたりします。

それが「メラルーカ」と呼ばれる場所。アカハラワカバインコの大好物のボタングラスという草が豊富なため、ほとんどのインコがメラルーカ付近で繁殖するとかしないとか。

そのために、アカハラワカバインコの観察所＋エサ場がここに存在しています。

ちなみに、日本のテレビ番組で何度か「太古の赤い海」と紹介されたこともある、バサースト湾はこの近くにどーんと横たわっております。

このメラルーカ、自動車道なんていうものは全くない、まさに陸の孤島に位置しているので辿りつく方法は主にたったの2つ。

### その1【サウスウエスト・トラック】

川を越え、膝までどっぷり浸かるようなぬかるみ道を越え、丘を越え……。 「どこがトレッキングコースやねーんっ!!」と突っ込みたくなるような悪路を、食料、水、テントなど、必要なもの全て担いで歩かねばならないという、色んな意味でサバイバルなトレッキング・コースを1週間近くかけて歩く。

ちなみに、サウスウエストはタスマニアでも有数の降雨量を誇る場所なので、悪路+土砂降りという悪夢が待っている可能性が無きにしも非ず。

### その2【セスナ機ツアー】

ホバート郊外から出発するこのツアー。

一見、少々料金は高いかな?と感じるけども、ガイド付きだということはもちろん、観察所にてモーニングティー、バサースト湾クルーズ、バサースト湾の中でのランチ付きなので、実際のところ、あれ?そんなに高くないのかも?と感ずるお値段。

本当に小さなセスナ機で飛んでいくので、高所恐怖症の方や、乗り物酔いの酷い方はちょっとご注意あれ。

実はこれ以外にも、ヘリコプター、小型船、セスナ機をチャーターをしたり、シーカヤックやヨットを持つてる人は海側から攻めてみたりと方法はあるんですけど、ごく普通の一般人は、徒歩かツアーを選ぶのが一般的です。

そんなメラルーカに生息する、憧れの野鳥アカハラワカバインコちゃん。

動物マニアで野鳥馬鹿の自分としては、絶滅してしまう前に、どうしてもやっぱり野生で会いたいわああああっ!!と、欲望を抑

え切れずにセスナ機ツアーに申し込み！メラルーカへと行ってきました。

生まれて初めてのセスナ機でしたが、そこはそれ、馬鹿と煙は高いところがどーとかこーとか。

高いところが大好きすぎる自分は、窓から見下ろすタスマニアに大興奮！！

わー！！これがサウスウエストー！！人類未踏の地が残る場所ー！！！！

そして徒歩だと1週間以上かかると言われる行程を、セスナ機ですつ飛ばして約1時間後。

観察所があるメラルーカに付きました。

……こ、ここがメラルーカ！！レア鳥たちの聖域なのねー！！と興奮ゲージは許容量を大幅に越え、傍から見れば怪しい人へと大変身。実はメラルーカ、アカハラワカバインコの最後の楽園でありながら、メインランドではもう虫の息になっているキジオウムの生息地でもあったりします。……奴らは夜行性なので見られませんでしたが、

観察所はこじんまりとした作りながらも、快適に過ごせるように、そしてメラルーカの歴史が分かりやすいようにと工夫がされていて、おおスゲー！！というのが第一印象。

そして、ガラス張りの大きな窓の前には、アカハラワカバインコ用のエサ場が。

運が良ければ、ここのエサ場に来るらしいけども、果たして今回はどうか……！？

と、そこにパササツと2羽の鳥が。

インコにしては小さすぎ。というかちよっくら派手目のような色で地味目のような色と言う、分かりにくい色をした、小さな小さな小鳥のカップル。

……サザナミズメさん。申し訳ありませんが、お前さんらはお呼びじゃないんです。

他のツアー客と駄弁りつつ、紅茶やビスケット、タイムタムを美味

しく頂きつつ待つことしばし。  
パタタツ。

目を見張る、色鮮やかな若葉色。そして黄色に近いお腹にポツチリと、でも存在感抜群のオレンジ色。

和名、アカハラワカバインコ。英名、Orange - Bellied Parrot。野生生息数は50羽以下と言われる幻のインコがエサ場に登場……っ！！

アカハラたんだー！！やつと会えたー！！君に会いに来たんだよー！！！！やつたー！！見れたー！！！！

興奮しすぎて、感動しすぎて、ちょい涙目に。

本当に、綺麗なインコでした。図鑑の絵や写真で見るとよりも何倍も綺麗で、可愛く美しく、そしてちょっと儂げな印象を与えるインコでした。

会えてよかった。でも、こうやってアカハラワカバインコに会えるのはあと何年あるんだろう。

そう思うと、またいつか、アカハラワカバインコに会いに行きたいと思います。

…… 今度行く時には、サウスウエスト・トラックに挑戦して会いに行こうか。

そのためにはもうちょい体力付けなきゃね……。

アカハラワカバインコに会いたい！！（後書き）

サウスウエスト・トラックの紹介文に「泥好きさん大歓迎！！」って書いてあって吹いた。晴れていたなら、結構綺麗なトラックらしいんですけど、ね……。



つんつんもふもふ。(前書き)

つんつんもふもふ＝タスマニア産のあの子について。

つつんもふもふ。

ツンツンしてます。でも、もっふもふなんです。抱きしめたらツンツが痛そうなんです。もふもふが気持ちよさそうなんです。

……矛盾しているような例えですが、実はコレ、タスマニアのハリモグラのことなんです。

ハリモグラという名前のとおり、やっぱりハリを持っています。しかしながら、常夏だったり暑かったりするメインランドと違って、冬はそこそこ寒くなり、夏でも場所によっては積雪があるという、厳しい自然環境にさらされているタスマニア。

そのせいか、タスマニアに生息するハリモグラはメインランドのハリモグラと比べて毛がもっふもっふ！

もっふもっふ度>>>>>針密度という、ハリモグラにはあるまじき矛盾した外見！！

その外見はまさに生きているぬいぐるみ！！

ああ、可愛いよハリモグラあああああつ！！

……失礼しました。

ハリモグラは、哺乳類ながらも卵を産んだり、頭蓋骨が完全に鳥だるお前。と突っ込み入れなくなる形だったり、母乳で赤ちゃん育てるのに肝心の乳首が無かったりという、もう何が何だか、何を信じればいいのかわからなくなるような変すぎる「単孔目（単孔類）」という動物の一種です。というか、同じ単孔目に所属するのは、やっぱりオーストラリアに住んでいる「カモノハシ」と、ニューギニアあたりに生息する、従兄弟関係の「ミユビハリモグラ」だけなんですけどね。

メインランド生息の普通のハリモグラも、攻撃的なツンツン姿をし

ていても超ビビリんぼでシャイな子だったりと確かに可愛いのですが、やっぱりタスマニアのハリモグラさんが最高に可愛いのです。矛盾した外見。恐怖の暴君アリ、ジャックジャンパーすらも「ジャックジャンパーさん美味しいです!!」と美味しく頂いてしまえる頑丈な身体……っ!!!(ジャックジャンパー「南オーストラリアに生息する超凶暴なアリ。ジーンズの上からでもたやすく噛みつく巨大なアゴと毒持ち。こいつに噛まれたら、最悪の場合、アナフィラキシーショックでこの世とバイバイする羽目になる」)

タスマニアのハリモグラ、外見以外にもメインランドのハリモグラとは違った進化を遂げておりまして、そこも馬鹿可愛いのです。というか、生存競争に必死すぎて愛おしい。

……オスが早くに冬眠から目覚め、まだ冬眠中だったり、穴の中でぼやくと夢うつつの気分だったりするメスを鋭いきゆう覚で見つけ出し、メスが正気になる前にmake love!!……オイオイ。人間だったら確実に逮捕されますよ……。

そんなオスの毒牙にかかってしまう可哀相なメスは、すごい子万能なお母さんだったりします。

ハリモグラの中で、一番子供につきつきり、子供と過ごす時間が多いのがタスマニアのハリモグラのお母さんらしいです。

子孫残すためにちよつと鬼畜になってみたり、やっぱり子供を育てるために必死になってみたり。

タスマニアというメインランドとは違った環境に適応するために進化してきた、タスマニアのハリモグラ。

もう可愛いカワイイかわいすぎる……っ!!!

先にも書いたとおり、ハリモグラ全般は意外とシャイでビビリんぼなんです。驚いたときの行動もお馬鹿で可愛いんです。

……頭だけ藪に突っ込んでそのままフリーズ。ただこれだけ。

地で「頭隠して尻隠さず」を表現してくださるのがハリモグラ。

「っしや、喧嘩売ってんのか? だったら買ってやるぜヒャッハー!

!」とでも言うように、超攻撃的に転じる、同じハリハリ仲間のヤ

マアラシみたいに攻撃する気も無し。かといって逃げるも気無し。逃げるよお前……。だから色んな動物に食べられちゃうんだよ、せっかくハリ持つてるのに……っ！！

ハリモグラってマイナー過ぎで、よくハリネズミと間違えられたり、ヨーロッパやアメリカからの観光客からは「ポーキュパイン（ヤマアラシ）」と信じ込まれたり、結構散々な目にあっている動物なんです。

知れば知るほど魅力的な動物だったりします。で、気が付けば彼らの可愛らしさに夢中になって、泥沼状態に突入。でもそれが心地よくなってくる、そんな恐ろしい魔力を持った動物なんです。

もっともっとハリモグラの可愛さが認知される日がいつか来るよう、世界の隅っこでこっそり祈っています。

つつんもふもふ。(後書き)

ハリモグラかわいいよハリモグラ!!  
もっともっとハリモグラの魅力が世界に広まりますように!!

タスマニアの天気は常識破り。(前書き)

たまに、天気予報で「予測不能」と出る地域があるくらい。

## タスマニアの天気は常識破り。

タスマニアで山歩きをしようとするれば、必要になってくるものが数点あります。

その1つとしてあげられるのが「地図」。

その地図の中で、大概いつも書かれている文句がコレだったりします。

「1年を通して、雪やあられが降る可能性があります。それ用の準備をしっかりとしておいてください」。

夏に雪？そんなのあるわけ……あるんです。だってタスマニアですから。

もちろん、場所は限られますけどね。

一番夏に雪が降りやすいのは、タスマニアの中央部分。比較的高い山々（といっても、最高峰が1640m）が集まり、氷河の忘れものであるいくつもの湖が点在している場所。

あと、州都ホバートを見降ろすようにそびえているMt. ウェリントンという山も、たまに夏に冠雪しています。

夏の雪。遠くの下界から見れば、それはそれは綺麗なものです。

しかし、山歩きの最中にゆーきやこんこん は……やめて下さい、本当に。

先日、オーバーランド・トラックという縦走コースを歩いてきたのですが、初日。一番ハードな行程の日にやられました。

出発前夜、今夜はかなり冷えるなーと思って、窓から外をふと見てみれば……真っ白い何かがひらひらと。

まさか雪！？と慌てて外に出て確認してみたところ、案の定雪でした。

そして翌朝、出発地点周辺は完全なる銀世界。

タスマニアの象徴とも言えるクレイドル・マウンテンは完全なる雪山に大変身。

丁度半年ぐらい前に、冬のクレイドル・マウンテンを訪れていたのですが、そのときにはあまり雪が無い状態だったので、「半年前と今、どっちが夏でどっちが冬ですかー!?」と思わず山に突っ込みをいれたくらいに、パツと見は完全に冬山状態。

さつくさつくと雪を踏みしめる音を立てながらの夏山歩きは、本当に今は夏なのか?と季節を思わず疑いたくなるほど。

そして、固有種の生い茂る林を抜け、多少開けた場所に出た瞬間、待ってました!とばかりのブリザードが……。

このときに思ったこと。「ああ、私はここで凍え死ぬのかもしれない」。

途中、吹きだまりで雪がかなり深くなっている場所もあって……埋もれました。腰近くまで。

かと思えば、翌日は雲ひとつない天候になり「夏ですよー!」と主張してきたり、その翌日は「今日は秋の気分なの!」と雨がザーザー1日中降ったりと、めまぐるしく変わりすぎるタスマニア中部の天候……。

自分、そして一緒に行った友達2名はタスマニア暮らし数年、かつアウトドア好きというメンバーだったので、初日は寒い寒いといったも、一応どんな天候にも対応できるように準備はしていました。

しかし道中出会った人の中にはタスマニアの天候と大自然を完全に舐めてかかっていた人たちもいました。

一人は寝袋⇨夏用のペラッペラな寝袋。防寒具⇨フリースとあまりふかふかそうではないダウンジャケットのみ。その相方さんは、寝袋無しのスリーピングマットのみ……おいおい。防寒具も「出発直前にビクターセンターで購入した」という、ソフトシェルジャケットだけときたもんだ。

しかもこの人たち道中には山小屋があるからと、それをあてにしてテント不携帯。いくら荷物を軽くしたいからって死にたいの?と思いましたよ……。幸運にも自分たちがスタートした日は人が少なく、全行程山小屋宿泊は可能でしたが、これがもし、山小屋満員だった



らどつするつもりだったのか……。

タスマニアの天気の恐ろしさ。

実はメインランドに住む人たちから「タスマニアには1日に四季がある」と言われるくらいだったりします。

実際、自分もこちらにきて間もないころ、1日に快晴 くもり 土砂降り（雷付き） 晴れ（虹付き） 土砂降り 霰という、ある意味天気のおんパレードを体験したことがあります。

朝、家を出た時には晴れていたのに、午後から突然前触れもなく土砂降りになることもしばしばです。

そういうことなので、カバンの中に折り畳み傘は必須。

ちよつと重くなりますが、びしょぬれになるよかマシ、ということ……。

ちなみにこちらで購入する折り畳み傘は、高くせにすぐに壊れたり、安いものは安物でしかなかったりします。

例えどこ製であろうが、日本で購入した折り畳み傘が一番だー！！

タスマニアの天気は常識破り。(後書き)

オーバークランド・トラックへと出発する前に一応、受付でスタッフに「冬のような、零下の環境にも耐えうる防寒具はあるのか。テントは所持しているか」など、口頭で確認されます。しかし、上で述べた2人は、英語がほとんど話せなかった。だから、あんな軽装備でオーバークランド・トラックに挑戦出来たのだろうかという勝手に推測。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7525z/>

---

好きになったのは「島」でした。

2011年12月24日23時55分発行